

進捗報告

2015.11.3 事務局 河中

関係各位にホームページ開発の進捗状況を報告します

このページはパソコンの word で作成し、pdf 形式で出力してサーバに up しています。

尚、下記 1 の方針に沿う情報・ドキュメントを募集しています。

先月は岩国図書館の本（品川次長）読み込みで忙殺です。孤独な作業でした。

1 方針

- ① 古くから伝承されている錦帯橋文化紹介。徴古館にこだわらず全国の美術館も調査
- ② 河床下の 3 層の石畳や橋脚の石垣は創建時のままと主張する
- ③ 錦帯橋の story を説明する。例えば、戦国から平和の時代に舵を切った象徴。

2 今やっていること（目先の課題）

① スマホの動作検証

Google は、スマホ、タブレット、PC を同一ページに記述し CSS3、@media 機能で画面レイアウトを替える事を推奨している。問題は、スマホは見た目最大 320px の横幅しかないが画質を 4 倍の高精細にしてパソコン並みに表示しようと頑張っている。つまり、パソコン並みに表示すると文字が極小になり読めない。私的見解が無駄な機能と思う。

@media は画面横幅 pixel 数でしか振り分けられないので、相当悩んだ末、やっと、`<meta name="viewport" content="width=device-width" >` の指定をすると、高精細モードが解除できることが分かった。

- ② 岡くんの紹介で、岩国の写真家集団とコンタクトがとれた。
- ③ 岩国図書館の本を scan した。2 冊目である。参考文献のメニューで 2 番目に出てくるようにした。日本の著作権法では文学作品は著者死後 50 年、団体の著作物、一般図書は公表後 50 年であり、この本は 60 年以上経つ。1 冊目の保勝会の錦帯橋紹介冊子も、1950 年公表なので著作権は消滅している。一般に周知させることを目的とした転載を禁止する旨の表示がない行政機関等の名義の下に公表された広報資料等は、出所を明示すれば、行政機関に無断で説明の材料に使える」とあるので、最近の市役所・官公庁出版物も引用できる。
ところで、2 冊目は「名勝錦帯橋再建記」である。

本書は、276 年ぶりに橋脚が崩れた錦帯橋の再建経緯・体制・日程・予算・材料

数量・構造等を細部にわたり詳しく述べている。著者、品川資氏は昭和二十六年

八月（1951 年）、岩国市長久能氏の動議で岩国市議会において承認されて創設し

た錦帯橋建設局次長であった。岩国市長は局長を兼務して対外交渉や事務処理の

責任を持ち、品川氏は錦帯橋再建組織を束ねたトップで再建実務の総責任者であつ

た。錦帯橋再建後、本書を記述している。400ページを scan してサイズ統一、

などを行った。相当疲れた。

当時は市長が先頭に立ち中央省庁や県と交渉して予算確保して、かつ重要な方針には方向性を示している。これなら組織一丸になるだろうと思えた。また錦帯橋の国宝の話が出ていたのでヤル気に満ちていた状況が読み取れた。

ところで、河床の石積みはルース台風で第三橋下2～3mえぐれたので修復したが、大部分昔のまま残っていると記述されている。河床地下の岩盤は地下15mで、新規の井筒は地下10mまで沈めた。これは岩徳線の鉄橋橋脚と同じ構造で、ルース台風では大正橋以外全部の橋が流失したが、その時無傷だった構造である。

土木史研究 第15号 1995年6月審査論文 小西純一氏著作の

「明治時代における鉄道橋梁下部工 序説」に記載されている工法と同じである。

当時、井筒工法は最先端だったようで明治20年施工の信越本線橋梁を掘り出し解体すると地下の松材が腐食していないのが印象的だったと書いてある。昔の知恵に感心したそう。再建錦帯橋の井筒構造は10mと地下岩盤まで届いていないのが300年前の松杭が支えているのだろうか。

橋脚の壁は創建時の石垣そのままを流用している。半分以上残っていれば遺跡なので可能性が高いと考える。ただ、昭和28年の再建後、石畳を修復したらしい。

この調査も必要だ。

- ④ 岡くんと幟旗、錦帯橋写真の収集中。高価なカメラにビックリ！

玖珂運動公園のゲートボール会場で岡くんが写真を撮った。女学生の後姿が可愛い

3 出来れば1ヶ月以内に実装

- ① 広報活動のページを埋める（50%）
- ② のぼり旗のページを埋める（50%）
- ③ 関連資料に図書を scan して電子図書の真似事（40%）
- ④ 陳情書の電子ファイル取得（0%）

4 長期的課題

- ① 徴古館で、錦帯橋関係の浮世絵・掛け軸等を調査
- ② 過去の講演会資料・錦帯橋関連図書の収集
- ③ 河床の3層の石畳の図面を入手
- ④ TOP ページの真ん中にある4つのボタンで、スマホのように小さな画像でメニューを選ぶ流行の操作方法を実装する。

ここに本命である①②③等を埋める

- ⑤ 市内の写真館・写真家集団「野良犬の会」の写真に掲載する
- ⑥ 岩国図書館で錦帯橋関連図書を調べる
- ⑦ 白崎八幡の下、称光寺の錦帯橋関連図書を調べる
- ⑧ 行事日程用の Google カレンダーを長期運用できる人材がいるか確認する
- ⑨ スマホの画素数と横サイズがバラバラなので、他社がどのように対応しているか調査し、さらに考察を深める。

5 確定事項

方針決定で変更禁止の機能

- ① 端末の画面サイズに合わせて css を変更する
高精細スマホは画素数をあげてパソコンの振りをするが字が異常に小さい。
高精細モードを無効にして、pixel 数で画面レイアウトを変える。
- ② 最初ホームページを開いたとき、ジワット文字・写真で主張を訴えて TOP ページに移動する。正式にリリースするときは、~/work1/index.html を~/index.html に移動するだけで、~/work3 はこのままとする
- ③ 外人を意識して、日本的風合いを出す。
根付、浮世絵などの写真を使い、背景色は江戸時代に流行った色を使う
- ④ TOP 画面左のメニューに既存ホームページの内容を記述する
- ⑤ 動画ファイルは mpg4 で youtube サーバに up し、iframe タグで youtube から再生する方式にする
- ⑥ ゆらぐ旗は無料の <http://makesweet.com/my/flag> を使う。自由度が無いので 1 箇所限定とする。
- ⑦ スマホ対策
 - ・ flash が動かないのでアニメ gif に変える
 - ・ スマホ機種と OS に応じて動く動画形式が違うので youtube に動画を up し、Youtube サーバとスマホ間の interface で動画形式を決める方式にする。
スマホ等では速度が遅いし料金がかかるのでなるべく動画は使わない
 - ・ スマホ等の画面サイズに応じて CSS を変える。
CSS3 では@media で制御する。

其の外

(愚痴)

私は現役の時、パソコン・サーバの開発などをやっていたので仕組みは理解していますが、デザイナーではありません。

ホームページに掲載する情報については無知です。情報が無ければホームページは作成できません。何を表現したいか、どの情報を掲載するかは皆様のほうが得意な筈です。

一緒に方針を考えてくれる相談相手が欲しい

(ボケ防止)

久しぶりにパソコン作業をすると、結構楽しい面がある。

今までパソコンしか対象にしていなかったが、スマホを対象にするとさまざまな課題がある。問題を解決したときの「突破感」はボケ防止に利きそうだ。

しかし、本の読み込みは時間がかかり疲れる。錦帯橋に詳しくなりそうだ。

(著作権)

日本の著作権は国際法に準拠しており、

(1) 一般発行物

公表後50年なので古い本を中心に参考文献を埋める。

(2) 文学作品・写真

死後50年なので、浮世絵・俳句・工芸品は明治時代以前限定である。

写真は死後50年なので、掲載する場合は必ず、本人の了解が必要である。

著作権の無くなった絵画の写真をホームページに掲載しても創造性がないのでカメラマンに新たな著作権は発生しない。

美術館が古い絵画で鑑賞料を取るのとは、著作権ではなく所有権。

発行された死後50年美術品の写真集に著作権はない。本の写真を掲載しても著作権は発生しない。

Public domain に公開した写真は著作権を放棄している。

(3) 公開周知目的の公的機関発行物

「転用禁止」が書いてなければ引用先を明記して本ホームページに載せられる